

アンケート  
「生保一般勘定」の還元利回り改善を受けた  
実態調査

実施期間：2025年8月27日～2025年10月6日

回答方法：オンラインWeb

回答数　：45件

# 本アンケートの目的

生保一般勘定は、数年前から予定利率の引き下げや新規受託の停止が続いていました。

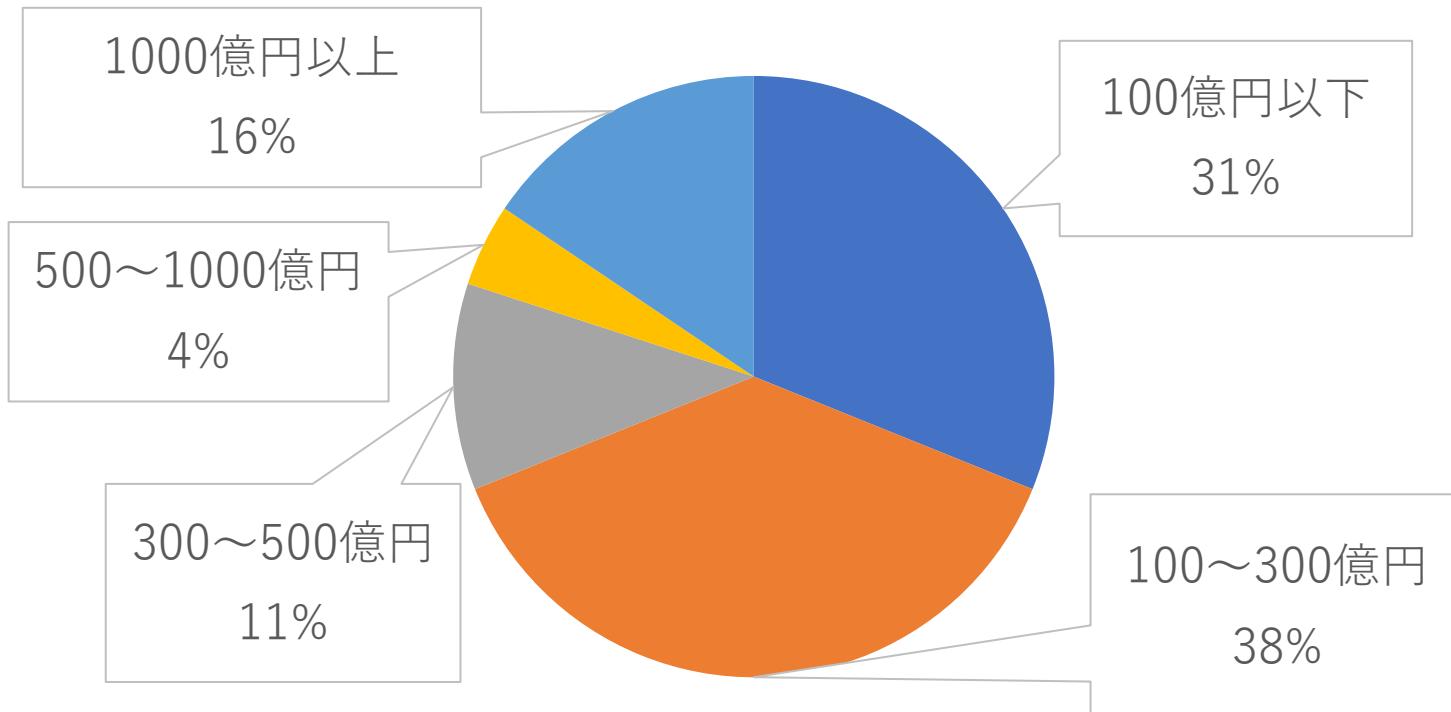
しかし、「金利ある世界」への移行を受け、新規受託の再開や、上乗せ利率の設定、配当算式の見直しなど、積極的な還元方針へと転換する生命保険会社が急増しています。

こうした環境を受け、機関投資家が生保一般勘定の現状や今後についてどのように考えているのか、アンケートを実施しました。

ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

# 調査概要 【回答者属性】

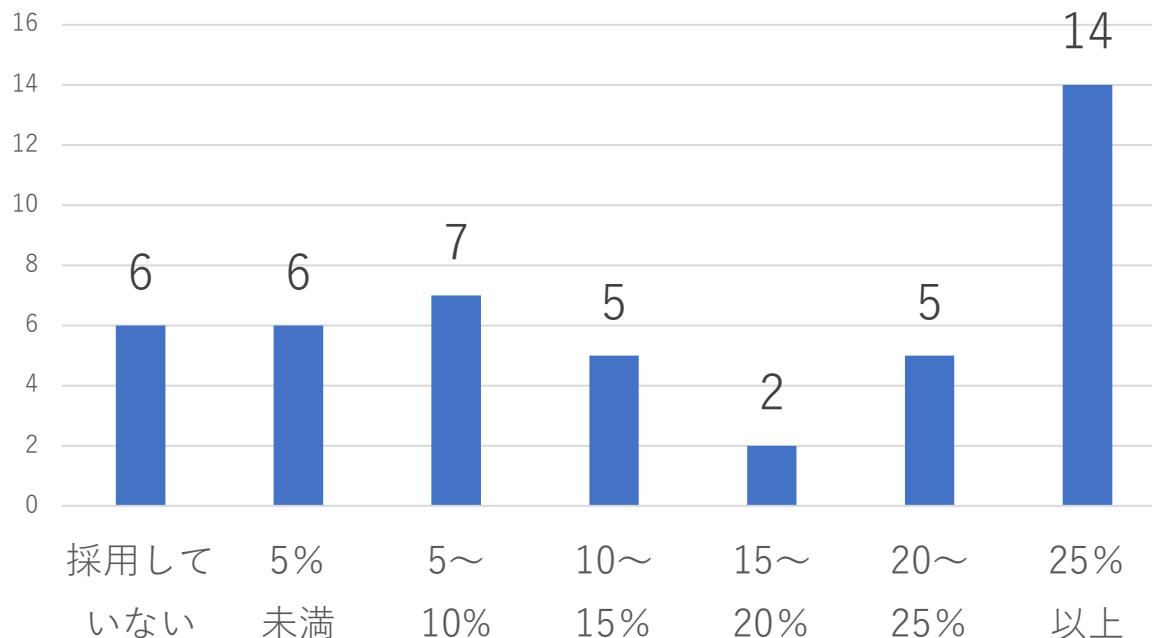
貴基金（貴社）の運用資産規模について  
教えてください。 n=45



合計	45基金
100億円以下	14
100～300億円	17
300～500億円	5
500～1000億円	2
1000億円以上	7

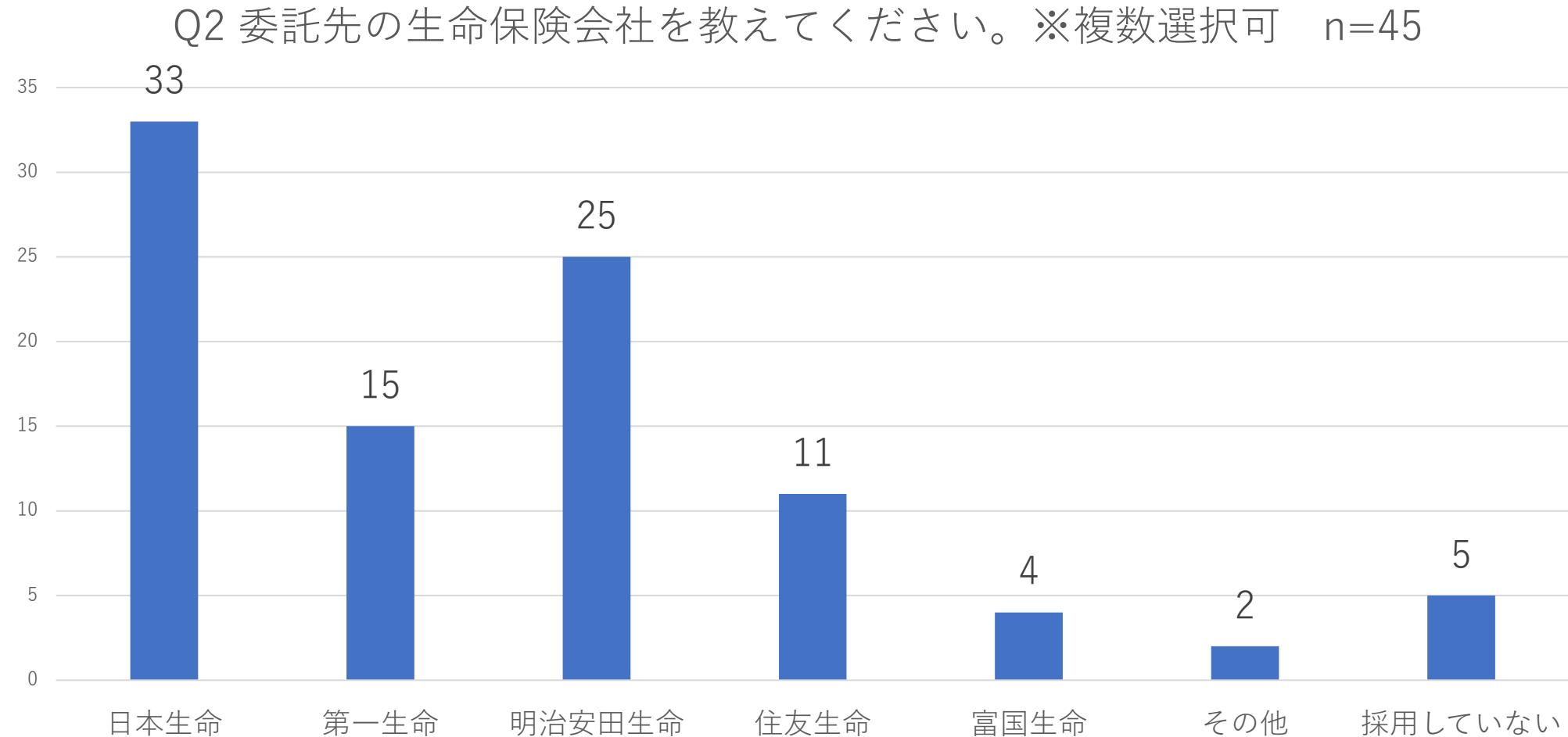
# ポートフォリオにおける 生保一般勘定の配分比率について

Q1 ポートフォリオにおける生保一般勘定の配分比率について教えてください。  
n=45



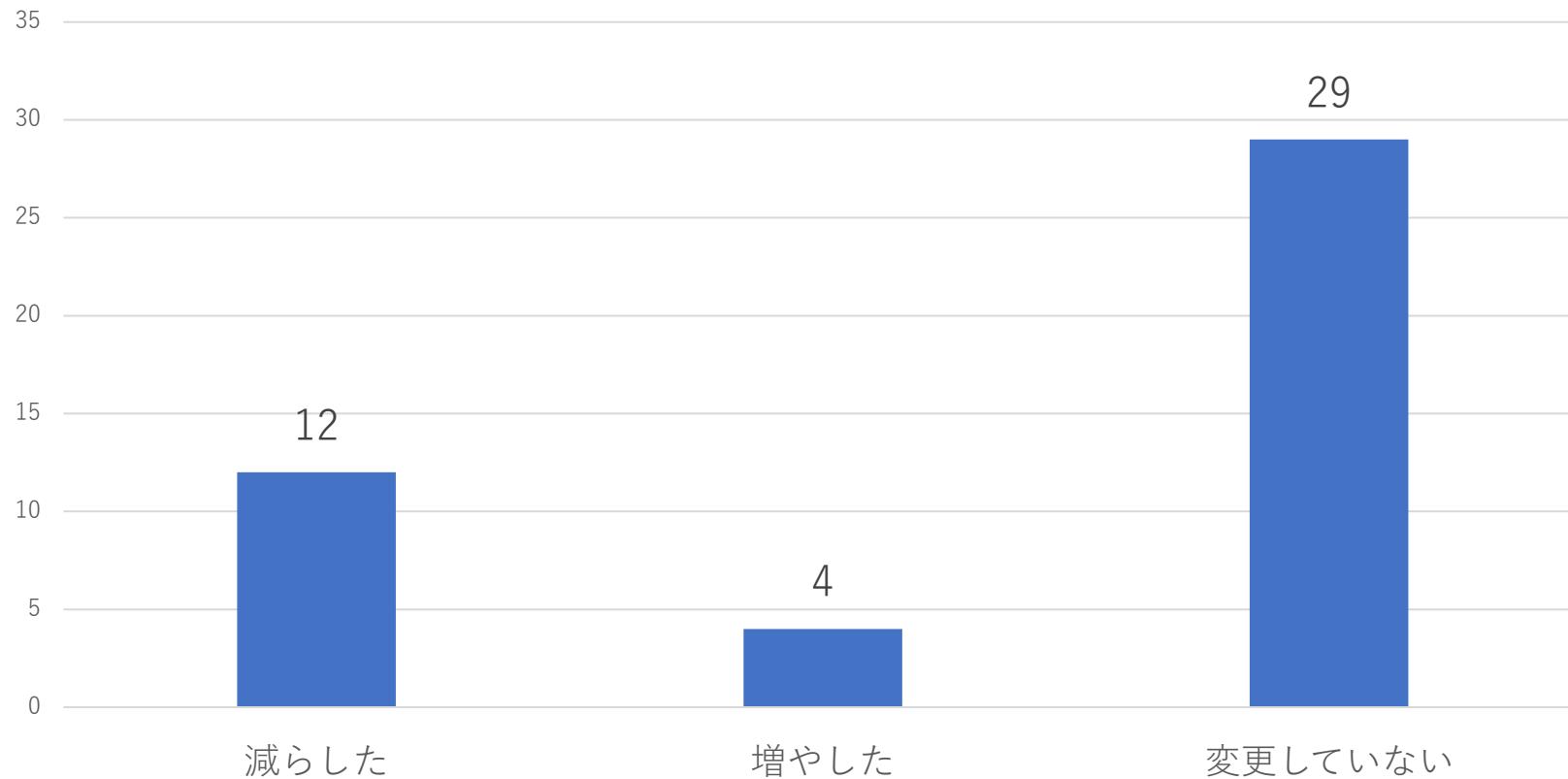
	100億円以下	100～300億円	300～500億円	500～1000億円	1000億円以上	合計
採用していない	3	2	0	1	0	6
5%未満	2	3	1	0	0	6
5～10%	1	6	0	0	0	7
10～15%	2	1	0	0	2	5
15～20%	0	1	1	0	0	2
20～25%	2	0	1	0	2	5
25%以上	4	4	2	1	3	14

# 委託先の生命保険会社について



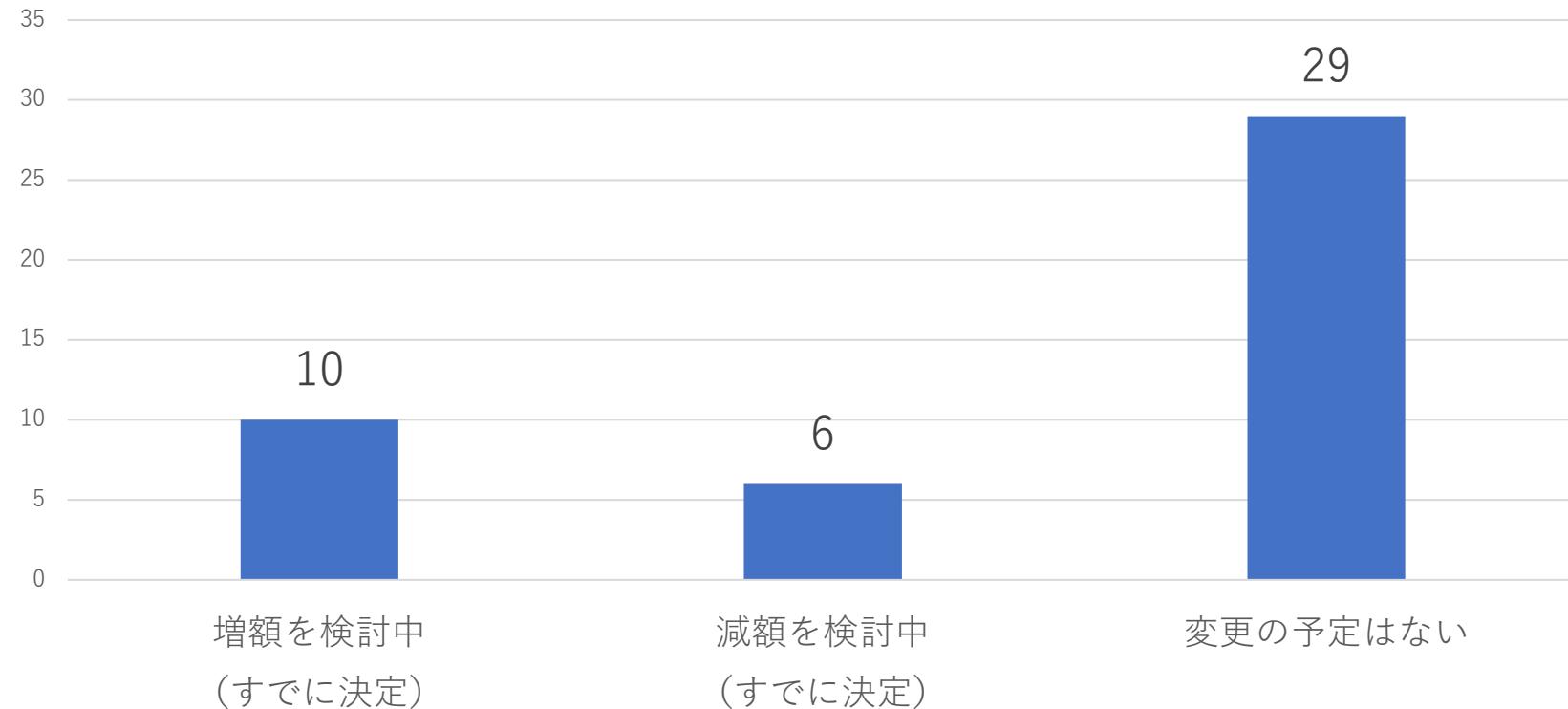
# 約3年前の利率引き下げ時について

Q3 約3年前から予定利率の引き下げが続いた時に、  
生保一般勘定の配分比率を変更しましたか？ n=45



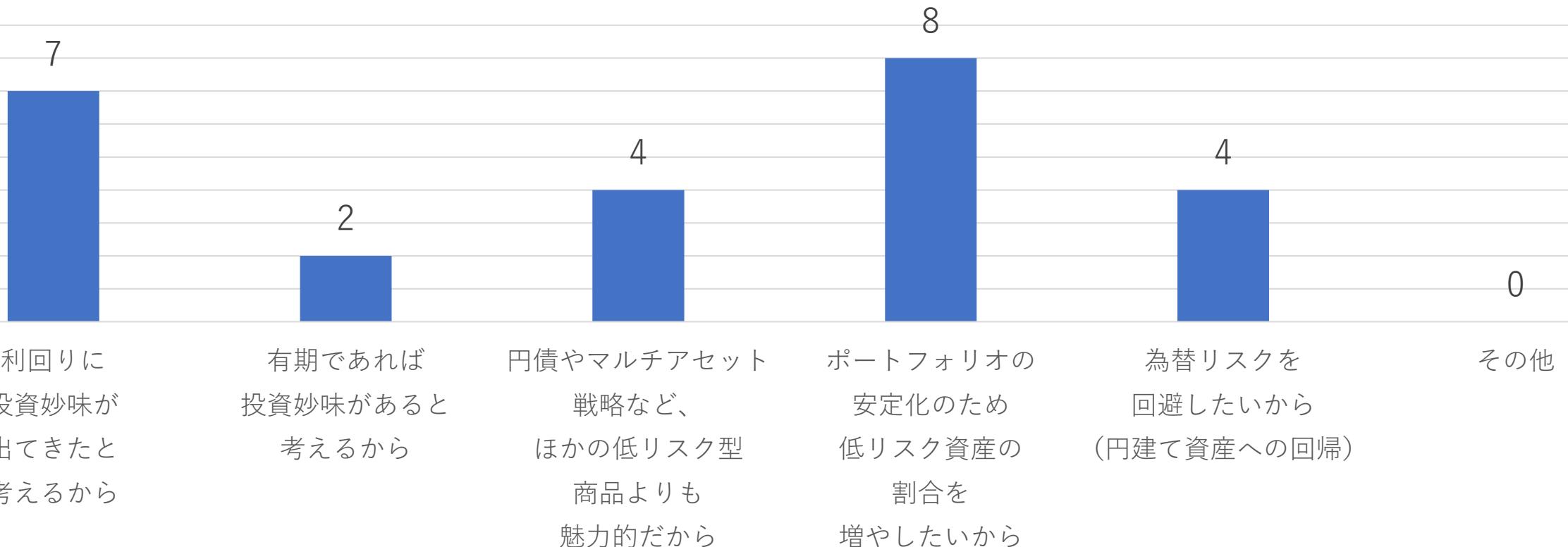
# 現在の対応について

Q4 現在、生保一般勘定の配分比率の増減はどのように  
検討していますか？ n=45



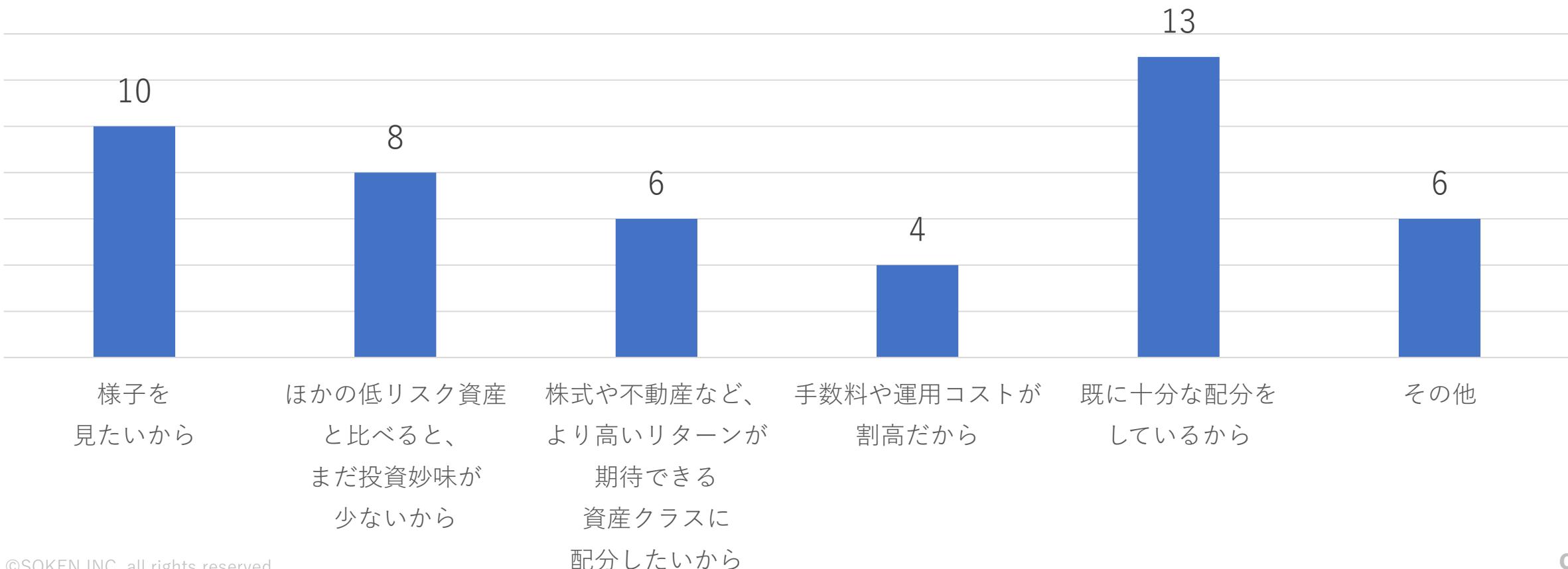
# 増額の理由

Q5 「増額を検討中（すでに決定）」を選んだ方に質問です。  
その理由を教えてください。 ※複数回答可 n=10



# 検討しない・減額の理由①

「あるいは減額を検討中（すでに決定）」を選んだ方に質問です。その理由を  
教えてください。※複数回答可 n=35



# 検討しない・減額の理由②

## 【その他】

- ・給付対応のファンドとしても活用中。予定比率引き下げに伴い、一般勘定受け入れを再開（且つ「給付シェア $\leq$ 残高シェア」の制限なし）した生保があったため、2024年に給付待機資金滞留口座として活用を開始し増額を実施した経緯あり。商品性の改善（利回り引き上げ、3階建てなど）に伴う増額の可能性も残るが、既に相応の配分あるため（他のアセットクラスとの魅力度比較を継続しつつ）しばらくは様子見。
- ・解約控除の問題、透明性の低さ、1社のクレジットリスクに依存するため
- ・安定運用である一方予定利率には達しておらず、長期金利の上昇で解約コストが上がっている、塩漬けにせざるを得ない状態のため
- ・流動性が低いため
- ・株式や債券との相関が少ないながら、一般勘定より高いリターンが期待できる資産クラスへの配分を検討しています。
- ・解約控除があるため使い勝手が悪い。

# 一般勘定に対する意見

- ・一般勘定に関するオンラインWebの記事（<https://al-in.jp/21160/>）にもありますように、これまで増減が難しい硬直的な状況が長く続いたと思います。そういった点で、特色が分かれ、選択肢が増えたことは投資家として望ましい環境になりました。当基金でも有期一般勘定の検討を行うなど、利回りを改善させる検討を行いました。
- ・企業年金の1資産クラスとして、利回り保証によるリスク分散という重要な位置づけに変わりはないと認識しています。
- ・金利上昇にともない解約控除(手数料)も上昇しています。そのため、解約方法を工夫しないと、解約控除(手数料)でマイナスになります。それがネックとなっています。